

世田谷村日記

石山修武

一月二三日 日曜日

昨日はT邸現場を見て午後藤沢の高橋さん訪問。十七時迄。その後色々な相談を含め会食、深夜帰宅した。

昼過木本一之君からの通信を詳読。広島の中で彼は独人黙々と努力している。様々な意匠の物体を依頼し始めているのだが、私も彼の生き方、独人の在り方から学ばなければならぬ事がある。大阪のM氏からの通信も読む。この人物からの通信も奥深いところに痛切なものが在る。彼等との附合いは最近の私の不如意をまざまざと思ひ知らせる。彼等を下から仰ぎ見る感じでは対峙したい。頭が高くなったらおしまいだ。教師もやっているのだから、自然に周囲は先生、先生と私を呼ぶ。十数年もそんな空気の中にいれば、イケナイ、イケナイと自覚はしていても、自然に顔が先生顔になってしまっている。これは危ない。当り前の事ながら、つくろ人であり続けるのだから、地ベタに近い腰の低さ、視点の低さは共に欠かせぬのだ。木本君に「子供の像」の造形に関して感じた事を手紙に書く。

十四時前府中で八大建設西山さんと会い、国分寺O邸へ。O邸も五年経ちメンテナンスを定期化しなくてはならない。屋根に登り念入りに点検する。諸々の問題点あり。建築は本当に一筋縄ではゆかぬ。

T邸オーブン・ハウス+小展覧会「家づくりを楽しむ方法」のプラン作成する。あんまり気張らずにサラリと、しかし、ズーツと続けられるように考えてみた。このスタイルの小さな集まりを

B邸、新木場社屋、森の学校と今年前半に連続してやってみよう。十七時修了。

一月二四日

○時半就寝。八時前起床。東北の結城さんに便りを書く。結城さんは広告代理店経営者から百姓に転身され、様々な苦勞は勿論あるのだろうが、まぶしい存在になってきた。もう一月も末になるが、何もしないうちに時間だけは過ぎてゆく。

十一時研究室。

二十一時半世田谷村に戻る。何故だか家に昨年末のカトリック新聞が床に転がされていて、外尾悦郎が登場していた。知らぬが仏だったが彼はやはり九一年に洗礼を受けていたらしい。洗礼名はルック・ミケランジェル。八十何年だったかカトリックに入信するかどうかで迷っていたからな。ガウディのサクラダファミリア教会の建設続行に参加して、本当にその建築をまっとうするならば、それはカトリック信仰なくしてはあり得ぬ。今はそれが少しは解るようにはなった。いつか再び外尾とは会う事になるだろう。その時、無信仰の私はどのようにアノ男と対すれば良いか。十二時過、就寝。